

記事 040 ふじのくに地球環境史ミュージアムと登呂遺跡の見学

村松憲一

静岡市にあるふじのくに地球環境史ミュージアムと登呂遺跡を見学しました。ふじのくに地球環境史ミュージアムは、静岡県立の博物館で、学校再編統合で2013年に閉校した県立静岡南高校をリノベーションして2016年3月に博物館として開館しました。廃校を利用した博物館は各地にありますが、中に入ると教室の跡と思えないほどきれいに整備されています。地球環境がテーマですので、生物多様性、食物連鎖、植生、魚類などが多い気がします。地質系の展示ももちろんありますが、展示物の量に対して展示スペースが狭く、ごちゃごちゃした印象があります。今年で会館10周年です。所在地は静岡市駿河区大谷5762で静岡大学のすぐ南隣にあります。駐車場は無料でとても広いです。山の中腹にあり、自家用車か静岡駅北口バスターミナルからのバス利用が良いです。



図1 ミュージアム入口



図2 里山の食物連鎖



図3 いろいろな木の实



図4 地球史展示室



図5 小鹿沢川の植物化石（静岡市駿河区）



図6 アンモナイト（浜松市天竜区）



図7 レピドシクリナ（伊豆市下白岩）



図8 礫岩片岩（浜松市二俣）

登呂遺跡は、第二次世界大戦中の1943年に軍需工場建設の際に発見されました。弥生時代の水田跡の遺構が確認されたのは日本で初めてです。大量の土器・木製品などの出土品とともに、住居跡・倉庫跡などの居住域（遺跡の北側）と水田域（南東側）が一体となっています。登呂遺跡の発掘調査をきっかけに日本考古学協会が発足しました。登呂遺跡がある静岡平野は、安倍川と藁科川がつくっ



図9 登呂遺跡 水田と住居跡



図10 復元された住居

た扇状地で、約 2000 年前の弥生時代後期、二つの川の流れからできた自然堤防のような微高地に存在した集落の一つです。東名高速道路の静岡 IC の近くにあります。



図 11 復元され住居内部



図 12 復元された祭殿